

## 摂食障害の子どもと親の関係性調査に関する研究

研究分担者 道端 伸明（東京大学大学院医学系研究科ヘルスケアリサーチ講座）

### 研究要旨

背景：親子関係と摂食障害の治療効果の関連は十分に解明されていない。方法：平成26～28年度の厚労科研内田班のコホート研究データを利用し親子関係が一年後の体重増加と関連があるかを解析した。結果：合計66名で、92%が女性であった。初診時の親子関係と、1年後の体重増加に有意差は認めなかった。一年後の親子関係が良い群(n=37)とそうでない群(n=29)とでは、親子関係が良い群が有意に1年後の体重が増加(p=0.0125)していた。考察：1年後親子関係と体重増加に有意な関連を認めた。結論：今後、更に解析を進め因果関係を明らかにする予定である。

### A. 研究目的

「健やか親子21(第一次)」では、近年中高生の不健康やせが増加していることが明らかになった。摂食障害に分類される神経性やせ症は、思春期に好発する精神疾患である。神経性やせ症は、低栄養のため様々な身体合併症を有し、他の精神疾患と比較しても死亡率が高い。先行研究では、摂食障害の発症は、家族機能や親子関係と関連があるという報告は散見されるが、親子関係が治療効果と関連があるかは十分に分かっていない。本研究は、小児摂食障害におけるアウトカム尺度開発のために収集されたコホート研究データを用いて、親子関係と摂食障害の治療効果の関連を明らかにすることを目的とした。

### B. 研究方法

研究データは、平成26年度～28年度の厚労科学研究費補助金(内田班：小児摂食障害におけるアウトカム尺度開発に関する研究)のために収集された多施設コホート研究データを利用した。2年の調査期間のうち、11施設から合計131例の小児摂食障害患者（初診時16歳未満）が登録された。調査項目は、リスク因子

を含めた患者背景情報の他に、Eating Attitudes Test-26、Children's Depression Inventory、Kid Kindler 中学生版等の質問紙を初診時、1, 3, 5, 12, 18, 24か月で繰り返し評価している。

対象は、データベースに登録された全小児摂食障害患者とし、初診時と1年後の体重の記録がない児は除外した。アウトカムは、体重増加とした。親子関係は、医師が回答した家族関係(親・同胞)について(良い、どちらとも言えない、不良、非常に悪い)の良いと回答したものを親子関係が良いとした。親子関係が良い群とそうでない群の2群間で1年後の体重増加についてt検定を行った。

本研究は倫理委員会で承認済みの研究説明書を用いて本人、保護者から同意を得て集められた匿名化(個人を識別できないもの)データの二次利用であり、本人・保護者に不利益が生じることはない。

### C. 研究結果

治療開始1年後の体重の欠損があった65名を除外した合計66名で解析をした。男女比は、92%が女性であった。初診時年齢は、中央値

13.1 (四分位範囲 11.8-14.5) 歳であった。初診時に推定罹病期間は中央値 0.5 (0.2-0.9) か月であった。診断分類は神経性やせ症が 67% で非定形が 33% であった。初診時の健康時からの推定体重減少は中央値 8.4 (四分位範囲 5.1-13.4) kg、最大 25kg 以上であった。初診時の親子関係が良い群 (n=31) とそうでない群 (n=35) とでは、1 年後の体重増加に有意差は認めなかった。1 年後の親子関係が良い群 (n=37) とそうでない群 (n=29) とでは、親子関係が良い群がそうでない群と比較して有意に 1 年後の体重が増加 (10.8kg vs 6.4kg,  $p=0.0125$ ) していた。

#### D. 考察

先行研究と異なり、初診時の親子関係は、その後の体重増加と関連が無かった。1 年後の親子関係と体重増加に有意な関連を認めた。しかし、本解析からは、親子関係が良かったため体重増加したのか、体重増加したため親子関係が良くなったかという因果関係の言及はできない。

#### E. 結論

1 年後の親子関係と体重増加に有意な関連を認めた。今後は、更にパネルデータ解析等を進めその因果関係を明らかにする予定である。

#### 【参考文献】

- 1) Wallis A, et al. How does family functioning effect the outcome of family based treatment for adolescents with severe anorexia nervosa? *Journal of Eating Disorders* 2017;5.
- 2) Goossens L, et al. The Parent-Child Relationship as Predictor of Eating Pathology and Weight Gain in

Preadolescents. *Journal of Clinical Child & Adolescent Psychology* 2012;41:445-57.

#### F. 研究発表

##### 1. 論文発表

該当なし

##### 2. 学会発表

該当なし

#### G. 知的財産権の出願・登録状況

該当なし

##### 1. 特許取得

該当なし

##### 2. 実用新案登録

該当なし

##### 3. その他

該当なし